

プロスポーツ支援事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	観光文化スポーツ部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ1 郷土愛を育み未来を築く子育て支援・多彩に活躍する人づくり						
	施策	施策5 文化・芸術、スポーツの振興						
	目的	オリンピック・パラリンピックなどに向けて、スポーツや文化・芸術を振興し、郷土への愛着と誇りを醸成するとともに、地域の活力向上につなげる。						
	目標指標（R2）	山形駅西口拠点施設及び県内の主要な美術館・博物館等の入場者数	790,000人					
	策定時の実績	358,310人（H27年度）	現状	380,845人（H28年度）	主要事業	文化・芸術、スポーツを活用した地域活性化		
事業名	プロスポーツ支援事業費			担当課・担当	県民文化スポーツ課 文化振興担当／スポーツ振興・地域活性化担当			
事業開始年度	不明			事業終了（予定）年度	未設定			
事業の目的（目指す姿を3行程度で簡潔に）	本県を拠点とする3つのプロスポーツ（モンテディオ山形、パストラボ山形ワイヴァンズ、東北楽天イーグルス）について、県民活動の視点も持ちながら、県民や企業等と一体となった幅広い支援を推進する。							
事業概要（5行程度で簡潔に）	① モンテディオ山形等支援事業（ホームタウン助成事業等） ② プロスポーツ活用「やまがた」発信事業（モンテディオ山形、山形ワイヴァンズのユニフォームスポンサー経費） ③ プロスポーツ支援団体活動応援事業（支援団体補助金） ④ スポーツ振興・地域活性化体制強化事業（21世紀協会運営体制協会事業への補助金）							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：プロスポーツチームや県内支援団体の主体的な取組みを促進するため							
予算額・決算額（単位：千円）	費目（予算見積書のグループ名）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	モンテディオ山形等支援事業	60,295	60,295					
	プロスポーツ活動「やまがた」発信事業	37,750	57,750					
	プロスポーツ支援団体活動応援事業	2,827	2,827					
	スポーツ振興・地域活性化体制強化	4,472	9,387					
	計	105,344	130,259	0	0	0		
財源内訳（単位：千円）	国庫支出金							
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源	105,344	130,259					
	計	105,344	130,259	0	0	0		
活動指標及び活動実績（アウトプット）	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	モンテディオ山形ホームゲーム入場者数	活動実績	人	138,232	142,094			
		当初見込み	人	138,232	145,000	187,000	221,000	
成果指標及び成果実績（アウトカム）	成果指標（所管部局の分析）		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	(株)モンテディオ山形経営目標（売上高）（第2次中期経営計画）	成果実績	百万円	1,576	1,698			
		目標値	百万円	1,567	1,617	2,000	2,100	
		達成度	%	100.6%	105.0%			
関連事業								

事業目標の考え方(事業目標設定時)

当事業によりプロスポーツチームを支援することで、地域の活性化と競技力向上を図り、山形の魅力を広く発信することができる。
 たとえば、モンテディオ山形は、NDソフトスタジアム山形でのホームゲーム開催などにより、県民はもとより県外から多数の観客が訪れ、本県に多大な経済波及効果をもたらすことから、活動指標としてホームゲーム入場者数を設定。
 また、入場者数の増により、(株)モンテディオ山形の経営力が強化され、J1復帰・定着が期待されることから、(株)モンテディオ山形の中期経営計画である経営目標(売上高)を成果指標とする。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	モンテディオ山形に関しては、収益力、チーム力を強化し、J1復帰・定着に向けた取組みを着実に進めることが喫緊の課題であると認識している。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	ホームゲーム入場者数の増加は、収益増、そして戦力強化に直結するものであり、(株)モンテディオ山形の経営計画にも掲げる数値を目標に設定することは妥当である。
	目標水準は妥当か。	A	(株)モンテディオ山形のH30売上は、過去最高を記録した。
	期待する成果が得られたか。	A	同社は、NDソフトスタジアム及び同スタジアムが立地している県総合運動公園の指定管理者でもあり、ホームゲームの運営にあたり、来場者サービス等の面で十分に活用されている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	B	
	支出先の選定は妥当か。	A	モンテディオ山形のホームゲーム入場者数は、見込みを下回ったものの、同社の売上高は目標値を上回った。
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	新たなファンの獲得、観戦機会の創出に向けては、地域住民団体の取組に、妥当な負担割合(1:1)により助成している。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	より多くの県民から足を運んでもらえるためには、チーム力強化が求められるが、現状のように、チームへの直接的支援が最も効果的と考えられる。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
	類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	
の役割 妥当性 分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	モンテディオ山形の下部組織(アカデミー)を運営する(公社)山形県スポーツ振興21世紀協会に、全市町村が補助または会費負担を行っている。
今 改善の 点課題 等	将来的に、J1定着のための経営規模の確保及びクラブライセンス正規取得のための施設整備(例:ホームスタジアム観客席の屋根カバー率が不足)が求められる。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない